



第十四回 平成二十二年四月一日
発行 東京都立東部療育センター
広報委員会
東京都江東区新砂三三二二十五

都立東部療育センターにおける地域支援の現状 副院長 岩崎 裕治

かもめ分教室 卒業を祝う会

センター開設以来、丸四年が経過した。開設時のコンセプトには、地域の中での総合療育センターとしての役割、地域生活の支援、地域社会との協調などが謳われています。ここで当センターが行ってきた地域支援につき振り返ってみました。

外来は発達障害、脳性麻痺など年間四〇〇名を越える利用がある。外来では医師による在宅管理、ソーシャルワーカー、看護師などによる相談・情報提供、栄養士による相談、リハビリスタッフによる装具の作成、自宅や学校などの環境調整、アドバイス等行っている。地域との関連では、近隣の特別支援学校、母子通園との情報交換・連絡会を定期的に行っています。また児童の学校に直接出かけて、情報収集や情報提供を行うこともあります。

通所は重症心身障害児・者のための在宅支援として、平成十八年度から開始され、昨年度から乳幼児通所も新設されました。現在三十五名の定員であるが、今年度は五〇名の登録児・者となります。医療的ケアが常時必要な方を優先的に受け入れており、二十一年度登録利用児・者四十四名中、常時人工呼吸管理が必要な方三名、気管切開十六名などで、通所されている方の重症度は、入所されている方の重症度よりむしろ重くなっています。

短期入所は重症心身障害児・者への在宅支援として、平成十八年度から開

始されています。介護者の休養、冠婚葬祭、病気、旅行、出産などの理由で、平成二十年度は年間延べ三二六件、延べ日数二二二〇日を受け入れました。近年の傾向としては、人工呼吸器管理など濃厚な医療的ケアの必要な方の短期入所利用希望が増加してきています。このように短期入所は、欠かすことのできない在宅支援であるが、一方短期入所では環境の変化により、利用者の体調が悪くなることもよくみられ、関係者は家族も含めこのことを良く認識しておく必要があります。

地域療育支援室は在宅支援の一つの柱として、MSW四名の他に臨床心理士や通所スタッフで構成されています。患者本人や家族への情報提供・環境調整などの支援、医師や看護師などと連携して地域施設への支援、関係機関等とのネットワーク作り、ホランティア育成、広報などに取り組んでいます。また特別支援学校や地域の通園などとの連携のコーディネートも行なっています。さらに平成十九年度からは、近隣の成人の通所施設とも定期的な研修を含めた連絡会を開催し、情報提供・交換に努めている。今年度は現在まで続けてきている事業を継続し、またより近隣の教育・福祉施設等との連携を深めていくとともに、現在東京として取り組んでいる長期NICU入院児への支援についても当センターとして何ができるのかを検討していきます。

還暦を祝う会

二階西病棟では、一月二十八日に東部療育センターで初めての『還暦を祝う会』を盛大に行いました。

利用者様の鏡割りから会が始まり、有馬院長からの祝辞につづき、利用者様の紹介がありました。次のプログラムでは、病棟スタッフによる、祝いの獅子舞があり、笛、太鼓の音色に舞う迫力満点の獅子にその場は魅了されました。

かもめ分教室担任の先生と日頃授業で作成した作品の紹介があり、その作品に色々な季節を感じる事が出来ました。

また、利用者様が二階病棟に入所されてからの様子、学校での授業風景の写真をスライドショーで上映しました。オータムフェスティバル、クリスマス会など、利用者様が過ごされた、その年、その時の思い出を振り返ることが出来ました。

記念品贈呈では花束や色紙、病棟の利用者様で作成した、赤いちゃんちゃんこカードのプレゼントがありました。

会の最後には、素敵なお祝いケーキとシャンメリーを片手に乾杯。ニコニコ笑顔でケーキを食べている利用者様の姿があり、温かい雰囲気ですは幕を閉じました。

成人を祝う会

(二階南・通所)

今年、二階南病棟では三名の方が成人を迎えられました。綺麗なお花や紅白の垂れ幕などいつもと雰囲気が違う病棟。そんな病棟にスーツ・袴・振袖をきた新成人の三名がさらなる華やかさをプラスしてくれました。

成人を祝う会では写真のスライドショーで二十年間を振り返ったりと思わず涙ぐむ場面もありました。職員のお祝いの出し物では、『ソーラン節』を元氣いっぱい力強く踊りました。皆の「ソーランソーラン」の掛け声もあり病棟は熱気に包まれました。最後は記念品の贈呈です。病棟の皆・スタッフからのお祝いの寄せ書きを額に入れてプレゼントしました。病棟皆の温かい気持ちやお祝いする気持ちはきっと三名の心にしっかりととどいたことだと思えます。

新成人の皆さん本当におめでとうございます。大人としてのスタートを切り、これからも楽しい経験をたくさんしていきたいですね。



平成二十二年一月十五日(金) 通所で成人を祝う会が行われ、一名の方の成人をお祝いしました。

午前中は式典を行いました。有馬院長、卒業学校の担当の先生、保護者会からお祝いの言葉を頂きました。シャンメリーによる乾杯と鏡割りを行いました。鏡割りでは中から風船と共に、「祝成人」と書かれた紙が現れ、とても華やかで盛り上がりました。

中でも一番のメインイベントは思い出の写真をお借りして作成したスライドショーの上映です。思い出の曲と共に流し、成人者のこれまでの思い出やこれらの決意を綴った「二十歳の誓い」を読み上げると、皆様の胸に熱いものが込み上がりました。

午後からは、スタッフによる祝いの舞として「獅子舞」を行いました。笛と太鼓の生演奏と共に獅子舞が登場し、祝いの舞いを披露しました。当日は多くの方の祝福の気持ちを頂き、感動的な式となりました。



通所 成人式



卒業を祝う会

平成二十一年度かもめ分教室『卒業を祝う会』が三月二十五日に盛大に行われました。今回は小学部五名、高等部二名の方がめでたく卒業を迎えられました。

会の始まりでは、たくさんの拍手に迎えられ、卒業生ひとりひとりが緊張した面持ちで入場してきました。祝う会には教員・保護者・センター職員をはじめ、たくさんの方の利用者様も仲間の門出をお祝いに駆けつけてくれました。

温かい雰囲気の中で始まった会は、皆で「校歌」・「分教室のテーマ」を歌い、次に校長先生、有馬院長からの祝辞と続きました。その後、スライドやビデオを使っての卒業生の紹介があり、これまでの成長を参加者みんなに分ち合い、列席したご家族の皆様もとても感慨深い様子でした。その他にも、卒業生がこれまでお世話になった恩師の先生方からの祝辞や保護者挨拶、記念品贈呈と進み、一時間弱があったという間に過ぎていきました。最後は皆でアーチを作り、「おめでとう」の掛け声の中、卒業生を送り出し温かい余韻に包まれながら終了となりました。この度卒業を迎えられた七名の皆様、本当におめでとうございました。

地域通所連絡会報告

二月十九日に地域通所連絡会を開催しました。この会は地域の通所施設と情報交換を行い、当センターの医療や療育の研修や情報を提供して、支援することを目的に実施しています。

当センターの療育圏とされている江東、江戸川、墨田、中央区の地域の成人の通所施設の職員を対象としています。今回は三回目の実施になりました。

一部の研修会では岩崎副院長より「障害児・者への医療的対応」についての講義を実施しました。三十名の参加がありました。講義の後の質疑では、呼吸障害や嚥下障害等について具体的な質問が多く出され、地域の施設でも利用者の高齢化に伴い日頃の療育で困難を抱えている状況が感じられました。

二部の情報交換会にも十五施設と三区の福祉課で二十九名の参加がありました。医療ケアの必要な方の増加に伴い、地域の施設でも一定の医療ケアを実施していける支援が会の目的の一つでしたが、地域の通所施設や短期入所の事業所での医療ケア実施にむけての動きが報告されました。

今後は更に地域の施設と連携を図り、当センターに蓄積された情報を有効活用して、地域生活への支援ができればという思いを強くしました。

福祉サービス第三者報告

福祉サービス第三者評価は、専門的な評価者が事業者の福祉サービスの提供状況を観察、評価し、事業者自らサービスの質の向上を図るために実施しているものです。

二十一年度の審査は、「NPO法人福祉経営ネットワーク」が行いました。評価は事業の定められた評価基準と手順をもとに、場面観察やご家族の皆様へのアンケート結果なども評価の参考にしています。ここでは、全体の評価

講評について報告します。入所・通所とも評価はほぼ共通しています。特によいと思う点では①センターの中・長期計画を踏まえた実践 ②IT化による利用者の迅速な把握と個別性の高い療育の提供 ③専門性の高い医療支援をベースにした質の高い療育、通所では①、③のほか送迎時の安全確保の取組があげられました。さらなる改善が望まれる点として 人材育成やご家族のサポートの対応などがあげられました。

今後、この評価を踏まえサービスの改善に努めてまいります。なお結果の詳細については、外来、病棟で閲覧できます。また、インターネットでも「福ナビ」でアクセスできます。

総合防災訓練報告

二月二十三日午後二時、一階清掃倉庫からの出火想定で総合防火・防災訓練を実施しました。今回は近隣の三施設との合同訓練として、実際に応援要請の連絡を入れ駆けつけた応援隊に避難誘導にあたっていただきました。センター内での報告及び避難訓練終了後、消防署隊員による梯子での地上階進入場面の実演や消防車に搭載されている機器の説明を受け、最後に消火器による消火訓練を行いました。

消防隊の方からは火災通報があった場合、当センターまで三〜五分で到着します。その間に、どこに何人いて何人逃げ遅れているのか、けが人はいるのか等を把握し、順次到着する消防隊員に情報を伝えていくことが必要です。また火災で危険なのは煙。煙からどのように避難するのか、もう一度確認してくださいとアドバイスを受けました。災害はいつ起こるかわかりません。今後とも火災に限らず様々な災害場面を想定し、職員が落ち着いて速やかに対応できるよう教育・訓練を積み進めたいと思います。



訓練風景



東部なくに

病棟名が花の名前に

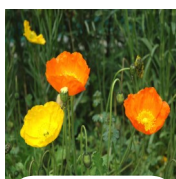
なっているのはなぜ？

二階西病棟「こすもす」、南病棟「なのはな」、三階西病棟「ひなげし」、南病棟「ちごゆり」とセンターの病棟名が、花の名前になっているのは何故でしょうか？

それは、当センターの開設備段階でセンター全体がアメニティに富んだ設計と共に地球をイメージしたコンセプトになっていて、一階が海、二階・三階は野原・草原をイメージして安らぎの空間である病棟に花の名前を付けた経緯があります。それは同時に桃色、黄色、橙色、黄緑色と病棟カラーを表し、色の判別で病棟がより分かりやすくなっています。その為、行事時、病棟カラーを意識してお揃いの色のTシャツを着て盛り上げている病棟もありますね。



こすもす



ひなげし



なのはな



ちごゆり

ボランティア紹介 梶野京子さん

トーンチャイム「ドレミファソ
ランド」は昨年結成十年という節目
の年を迎えました。最初は麻布学園の
母たちの集まりからスタートしまし
たが、今では人の輪も広がり、活動の場
も麻布学園から出て、いろいろなと
ころでの演奏にチャレンジしています。
若いメンバーも増え、十六名のメンバ
ー一同、ますます元気に活動を続けてい
ます。年二回の東部療育センターでの
ボランティア活動での演奏は、まさに、
その活動の基本動機となっております。

初めてセンターに伺いました時、本
当にすぐ近くで皆様にお聴きいただき、
拙い演奏を、心から歓迎して頂き、受
け止めてくださる温かさを感じました。
私たちのほうが、どんなに心癒され元
気をいただいていたことかしれませ
ん。初夏の清々しいスタートから「ク
リスマス」・「秋の日」・そして今回
の「春に寄せて」と四季折々に伺わせ
て頂き、私たちのレパートリーも自然
に増えてきました。ただ、自分達の楽
しみのために始めた、トーンチャイム
の演奏。それをこんなにも喜んでお聴
きいただけますこと、本当に嬉しい限
りです。今回は特に皆様にも各病棟ご

とにそれぞれのスタイルで参加してい
ただき、五回も違うハーモニーを響か
せることができましたドレミファソラ
ンドだけでは絶対に出せない響きです。
皆様の透明感溢れる「きらきら星」の輝
くようなベルや、鈴の音が今も心に響
きます。前日の春の嵐から一変し、明
るく優しい春の訪れを全身に感じると
ても楽しい一時をありがとうございました。

また、是非ご一緒に奏でられますこと
楽しみに練習に励みたいと思います。
今後ともよろしくお願いいたします。



♪演奏中です♪



東部あれこれ

今年の一月から三月にかけて当院で
行われた行事等について紹介します。

【一月】

センターでは利用者の皆様に季節に
応じた行食事を提供していますが、中
でも元日の食事は入所利用者の皆様が

最も楽しみにしているものの一つです。
昼食に提供された献立を紹介しますと、
マグロのお刺身、ホタテ貝、栗きんと
ん、菜の花のお浸し、すまし汁、鯛み
そ、ブルーベリームースでした。栄養
科では、今後も利用者様に喜んでもら
える食事を色々と考えていきます。お楽
しみに。

【二月】

受動喫煙の防止対策として、厚生労
働省は学校、病院、百貨店等、多数の
人が利用する施設は原則全面禁煙とす
るよう求める通知を各自治体に出しま
した。現在、センター内は分煙となっ
ていますが、愛煙家にとっては今後ま
すます厳しい喫煙環境になることが予
想されます。

【三月】

五日午後四時から療育部主催により、
多摩北部医療センターの石島看護科長
を講師に、職務目標の立て方やその後
の管理の仕方について研修が行われま
した。当日は三十六名の参加があり、
講師からは職員に対して鋭い質問もあ
りました。

第二回院内研究報告会

三月十七日午後二時から、研修室で
院内研究報告会がありました。各部門

からは昨年よりも四題多い計十三の演
題が報告され、院長以下八名の審査員
による厳正な審査により、最優秀賞に
三階南病棟の「適正なオムツパッド使
用法を試みて」が選ばれました。優秀
賞はリハビリテーション科、敢闘賞は
三階西病棟、そして特別賞は栄養科が
それぞれ受賞しました。



院長（中央）と表彰者の皆さん

編集後記

わか草第十四号をお届けします。桜
が咲き始め、花の便りも聞かれる時
候になりました。花の名前を付けた病棟
も、新しい年度を向かえ、華やいだ装
いになりました。春は、生命の息吹
を感じ、何か素敵なことが起こりそ
うな予感がしませんか。センターも五度
目の春を迎えています。これから
新しい発見と驚きをお届けできるよう
努めたいと思います。